

ひいの郷 萌

地域密着型サービス自己評価票（網掛け部分は外部評価も行う調査項目） 取り組んでいきたい項目には「1」が入っています。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
			理念に基づく運営 1～5 (自己 1～24・外部 1～14)	自己評価24項目・外部評価14項目	3	
理念に基づく運営	1 理念の共有	1 理念の共有(自己 1～3・外部 1～2)		自己評価3項目・外部評価2項目	0	
		1	地域密着型サービスとしての理念【外部評価】 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自に作り上げた理念である。地域の中で社会の一員として暮らすことを大事にし、実践している。	0	
		2	理念の共有と日々の取り組み【外部評価】 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全ての職員に運営規定を渡し、勉強会を開いている。ひいの郷の理念を事務所や玄関の見やすい所に提示し、会議や日々の現場で理念の確認を行い、職員は日々のサービス提供場面で理念の実践に心がけている。管理者から新しい職員への理念の説明も行っている。	0	
	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	生活の場をひいの郷に留まらず、積極的に地域に拡大していき、その中で、ひいの郷の姿や活動を地域の方に知っていただく事で支援が強まっている。また、人を介して支援の輪が広がっている。家族も家族会や「ひいの郷たより」など様々な場面で理念を伝え、実践の中で理解していただくように努めている。	0		
	2 地域との支え合い(自己 4～6・外部 3)		自己評価3項目・外部評価1項目	1		
	2 地域との支え合い	4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	門扉には鍵はかかっておらず、開放的な作りになっている。近隣の方々や通りがかりの方への挨拶や声掛けにて、気軽に立ち寄りいただけるように努めている。	0	
5		地域とのつきあい【外部評価・重点】 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会活動参加、地域の高齢者の集いに毎月参加、朝の散歩を中心に地域の方との交流深まっている。日中の散歩でも、公園等で出会った方と話をしたりと交流の場を持っている。近くにある小学校とは互いに行き来があり、学校行事参加がある。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営	2	6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を中心に互いに情報を交換、互いに力が発揮できるように努めている。地域の事業者と連携をとっている。	1	福岡市主催の「キャラバン・メイト養成研修」に職員2名参加予定。地域で認知症を正しく理解し、温かく見守る輪を作る事ができるよう努めていきたいと思っている。
		3	理念を実践するための制度の理解と活用(自己 7~11・外部 4~7)	自己評価5項目・外部評価4項目	0	
		7	評価の意義の理解と活用【外部評価・重点】 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、リーダーは意義を理解している。職員にも全体会議、ミーティング、機会あるごとに意義を伝えている。今までの評価結果は文書で配布し全体会議の中で話しあった。改善策の作成までは必要ななかったので計画書は作成していない。	0	
		8	運営推進会議を活かした取り組み【外部評価・重点】 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月おきに会議を開催している。互いに情報交換をすることで、地域との交流が深まり支援も強まっている。家族にひいの郷の理念や活動を理解していただき、協力・支援をいただいている。地域包括支援センターの出席もある。	0	
		9	市町村との連携【外部評価・重点】 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福岡市からの委託事業である開設者研修、実践（リーダー）研修の職場実習を受けいている。制度の変更時や事業者に係る変更届の提出時にはその都度対応や指導を受けて続きをとっている。	0	
		10	権利擁護に関する制度の理解と活用【外部評価・追加】 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修には積極的に参加している。研修報告や資料を基に勉強会を行っている。成年後見人については契約時家族会の時にパンフレットを渡し説明を行っている。必要と思われると方や希望の方には主治医の協力を得て、手続きがスムーズに出来るように支援している。	0	
		11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について内外の研修や勉強会に参加している。また、高齢者や認知症についても職員は集団、あるいは自己にて学ぶ機会を多くし、適切な介護で虐待を防いでいる。利用者の方に対しては優しさと尊敬の念を持って接している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
		4	理念を実践するための体制(自己 12~18・外部 8~10)	自己評価7項目・外部評価3項目	1	
理念に基づく運営		12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者(可能であれば)、家族に契約時「入居契約書」「重要事項説明書」を読み上げ具体的に説明している。その時に疑問点や相談等受け付けている。入退きの不安や疑問を少しでも軽減する為に、面接や電話による相談・アドバイスを密に行い、十分な理解と納得に努めている。個々にあった支援を行っている。	0	
		13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見、不満、苦情はその人の思いや希望を知る上でも大切と思い、真摯に耳を傾け、運営反映に努めている。また、地域の方との交流も積極的に行い、外部者へ表せる機会を設けている。	0	
	4	14	家族等への報告【外部評価・重点】 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	暮らしぶりや健康状態は「ひいの郷だより」で毎月個々に報告している。それ以外にも面会時や変化時には必ず連絡、こまめに報告を行っている。金銭は小遣い帳にて管理、定期的に確認してもらっている。職員の移動は家族会を中心に報告。担当職員に移動は個々にお知らせしている。	0	
	外部評価8	15	運営に関する家族等意見の反映【外部評価・重点】 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や介護の意向を伺うとき、プラン作成時に意識的に申し出をしやすい声掛けや雰囲気づくりをしている。日頃から、家族からの申し出はひいの郷の向上に必須であること伝えている。申し出があったときは全職員に伝え話し合いを行い、文書化し、結果を家族に報告している。公的窓口の紹介は契約書や玄関に提示している。	0	
	外部評価9	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の各ユニットごとの会議、リーダー会議、年2回以上の全体会議にて意見や提案を聞く機会を設けている。	1	管理者が職員の意見や提案を出しやすい環境作りをしていきたい。
	理念を 実践する ための 体制	17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況にあわせて4交代のローテーションを組み、利用者の状況によりユニットごとで職員の配置や勤務時間を変えている。勤務表作成者を中心に勤務調整を行っている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営	4 理念 の実 践 制 度	18	職員の異動等による影響への配慮【外部評価】 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	安易な移動は行っていない。離職する職員も少なく、なじみの関係が保たれている。	0	
		5	人材の育成と支援(自己 19~24・外部 11~14)	自己評価6項目・外部評価4項目	1	
	5 人材 の 育 成 と 支 援	19	人権の尊重【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢性別での排除は行っていないが、必要とする勤務ができるかを判断材料にしている。個人の能力を大事にし、仕事の上でも役立つように支援している。社会参加や自己実現に対しては勤務調整希望に応じ、勉強会や受験費用を補助するなど保証している。	0	
		20	人権教育・啓発活動【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する外部研修に参加し、研修会の報告を行っている。会議や送り、日々の現場で常に利用者の人権を尊重する事を話している。	0	
		21	職員を育てる取り組み【外部評価】 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員育成に積極的である。職員は認知症実践(リーダー)研修、市町村、協議会主催の研修に参加している。研修はすべて勤務扱いとなり、報告書を義務付け必要な事柄は報告会を行っている。段階に応じて研修計画を立てている。管理者やリーダーは職員の質の向上を目的とし、助言や考えるきっかけを示したりする役割を担って	0	
		22	同業者との交流を通じた向上【外部評価】 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に所属し、職員研修や介護などに積極的に参加、交流をしている。親睦会にも参加し連携を強化している。行事や課題を合同で検討し、日常的な情報交換や相談を密に行っている。相互訪問や見学、交換研修を行い、自分の事業の質の向上に取り組んでいる。	0	
		23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個別に話を聞いたり、細かに声掛けを行なっている。職員間の親睦を深めることを目的として食事会を行っている。	1	個々にそった声掛け(やる気を引き出す)を意識的に行なっていく。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	5 と人 支材 援の 育成	24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者からの報告や運営者自らが把握に努め、意欲向上の為の声掛けを心掛けている。本人に応じた研修に参加させ、専門書など必要な書物は購入している。介護福祉士の資格取得をすすめ、受験費用を出している。介護支援専門員の取得に対しても支援を行っている。	0	
安心と信頼に向けた関係作りと支援 1～2(自己 25～34・外部 15～16)				自己評価 1 0 項目・外部評価 2 項目	2	
安心と信頼に向けた関係作りと支援	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 (自己 25～28・外部 15)			自己評価 4 項目・外部評価 1 項目	1	
	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用相談時には本人同伴をお願いしている。その他にも自宅訪問を行い、出来る限り本人の意思や思いを汲み取るように努めている。入居当初の混乱を少しでも緩和する為に馴染みの関係をつくるように心掛けている。	0	
		26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回相談時には家族は様々な問題を抱え、疲労感と共に混乱が見られる。その思いを共有し、傾聴することで、辛い思いや、置かれている状況を理解し、改善に向けて働きかけている。面談や電話などで話を聴く機会を増やし、信頼関係ができるように努めている。	0	
		27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日頃から同業者や福祉事業との連携や情報交換を行い、適切な対応が出来るように努めている。相談に至るまでの想いを知り、真心を持って接するように心掛けている。空室がなく受け入れ不可時や他のサービスを受けることが適切と判断した時には他の施設紹介やサービスを受けることをアドバイスしている。	0	
		28 外部評価 15	馴染みながらのサービス利用【外部評価】 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前の訪問を行なっている。体験入居も可能であること説明しているが、家族はすぐの入居を希望される。本人が納得しての入居は少ない。入居後に家族との関わりが薄くならないよう面会や電話などをお願いしている。	1	本人納得の上で入居して頂くように働きかけていく。納得不可時でもひいの郷での生活が心地よいと感じていただくように努めていく。
	2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 (自己評価 29～34・外部評価 16)			自己評価 6 項目・外部評価 1 項目	1	
係り2 継続 これ へま のま の支 援 関 係 づ く り	29 外部 評価 16	本人と共に過ごし支えあう関係【外部評価】 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に挑戦し(内容は単純な作業も含まる)成功した時には、一緒に喜ぶ関係にある。気持ちの共有ができることが増えた。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係作りと支援	新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	生活の場をひいの郷に留まらず、積極的に地域に拡大していき、その中で、ひいの郷の姿や活動を地域の方に知っていただく事で支援が強まっている。また、人を介して支援の輪が広がっている。家族も家族会や「ひいの郷たより」など様々な場面で理念を伝え、実践の中で理解していただくように努めている。	1	家族が家族であることの大切さを職員が理解し、共に支えあう体制を強化していく。
		31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症の症状により、本人はもとより家族にも生活や介護に多様な混乱で危機が生じている事がある。これらのことを早期は発見し、本人・家族共に支援。家族には認知症を理解していただけるように働きかけを行い、本人の家族への思いを伝えるなど、より良い関係が築いていけるように支援している。	0	
		32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が慣れ親しみ喜んできた暮らしを知り、その関係を継続する事は大切な事と思っている。家族を中心に本人を取り巻く人々から力を借りながら馴染みの維持に努めている。	0	
		33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	関係把握を行い、心地よい関係が維持できるように努めている。孤立しがちな方には意識的に職員が交流の橋渡しをすることで孤立を防いでいる。日々の生活で互いを支えあう支援を行っている。臥床されている時間の長い入居者の方の部屋を訪問し、交流をしている。	0	
		34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後の場所へ面会や訪問を行なっている。退去されて時間がたっても亡くなったこと連絡があり、お通夜や葬式に殆どの職員が参列している。	0	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1～4 (自己 35～51・外部 17～22)				自己評価17項目・外部評価6項目	5	
	1	一人ひとりの把握(自己 35～37・外部 17)		自己評価3項目・外部評価1項目	3	
	1	35	思いや意向の把握【外部評価】 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	昨年と比べると思いや意向を把握する力がついてきているが、まだ不十分である。	1	職員の質の向上のために認知症高齢者について学び、自己研鑽を継続していく。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいき きたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	1 一人ひとりの把握	36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問や聞き取り、これまでのサービス事業者からの生活全般、家族にはセンター方式のシートを記載していただき、その人を知る事に努めている。本人からも日々の生活や会話の中でこれまでの暮らしの情報を意識的に得るようにしている。	1	日頃から職員間で情報交換を行なっていく。
		37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員は24時間生活を見守り、生活を共にすることで一人一人の過ごし方や本人の出来ることできないことの見極め、心身状態の把握を行なっている。	1	各職員の把握した内容を総合的にまとめ一つのものにしていきたい。
	2	本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し (自己 38~40・外部 18~19)	自己評価3項目・外部評価2項目	1		
	2 介護計画の作成と見直し 本人がより良く暮らし続けるための	38 外部評価18	チームでつくる利用者本位の介護計画【外部評価】 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事前に本人・家族に意向を伺い、月1回のミーティングでケアプランのチェックやカンファレンスを行い職員の意見や気付きを聞き、プランに反映させている。主治医の助言も得ている。情報収集をこまめに行い「利用者自身の計画」である事を心掛けている。	0	
		39 外部評価19	現状に即した介護計画の見直し【外部評価】 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランマニュアルにそって1~6ヶ月に見直しを行なっている。変化ごとや最低でも月1回モニタリングを行なっている。見直しが必要な時はカンファレンスをし、皆の意見を聞き、大幅な修正が必要な時には新に作成している。小幅な修正の場合はその部分に関連する表の修正を行なっている。	0	
		40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やケアプランチェック表、医療ファイル、居宅介護支援経過表などに記載、職員間で情報を共有し、実践や計画の見直しに活かしている。介護記録はケアプランに沿った記録を目指しているができていない。	1	センター方式の24時間生活シート使用を検討している。近日常に研修(施設)を予定している。
	3	多機能を活かした柔軟な支援(自己 41・外部 20)	自己評価1項目・外部評価1項目	0		
	3 多機能を活かした柔軟な支援	41 外部評価20	事業所の多機能性を活かした支援【外部評価】 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	身体症状の悪化で医療の充実が必要な方に対しては24時間医療や訪問看護の契約の手続き等の支援を行なっている。家族と利用者のふれあいの介助支援や移送サービスを行っている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4	本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	4	本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 (自己 42~51・外部 21~22)	自己評価10項目・外部評価2項目	1	
			42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会や地域の高齢者の集いの中で、民生委員の方との情報共有や交流が出来、互いの支援、協力が出来ている。ボランティアの受け入れは利用者の意向に沿って行なっている。警察にはひいの郷の存在を知っていただき、消防は救急・防災訓練と常に支援を頂いている。学校との交流、他の期間からの支援がある。	0	
			43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性が特に無い為に他のサービスは利用していない。	0	
			44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただき、情報交換等を行なっている。	0	
			45	かかりつけ医の受診支援【外部評価】 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望をお尋ねしながらかかりつけ医を決めている。かかりつけ医と事業者の連携は出来ている。	0	
			46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知用専門医による週1回の往診があり、往診以外でも相談に応じていただける。必要や希望に応じて家族への説明が行われ、クリニックへの受診も出来る。	0	
			47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師による2時間医療連携体制をとっている。定期的に利用者の方の体温・脈・血圧測定を行い健康管理を行っている。また、医療との連携や受診に対する働きかけがある。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4	48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力病院とは普段から事業者の理念や医療体制、介護の情報を提供し理解に努めている。入院時には利用者・家族を支え、ソーシャルワーカーや担当者との情報交換を密に行い、家族の方にも早期退院に向けての協力をお願いしている。	0	
		49	重度化や終末期に向けた方針の共有【外部評価】 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書の中に看取りを記載し、契約時に説明・同意を得ている。体調の変動や病院入院などの変化時はその都度意向の確認をしている。重度化した場合は本人(可能な場合)・家族・医療関係者・職員とで状況に応じて繰り返し話し合い、段階的な合意をし、全員で方針を共有している。	0	
		50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	24時間対応のクリニック、訪問看護の支援を受け、重度の方の医療・生活を支えている。「できること・できないこと」の見極めと共に「どうしたら出来るか」の前向きな検討も行なっている。医療連携や看取りのマニュアルを作成している。入居契約時に重度化、終末期のあり方をお尋ねしている。本人からも聞きとりを行なっている	1	「できること・できないこと」の見極めのため、職員からの意見を汲み上げやすい環境作りに努めていく。
		51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退去先のソーシャルワーカーや関係者、家族、本人(可能な場合)と話し合い、互いの情報収集に努め情報を共有している。情報交換の手段は文書、電話、近隣の場合は訪問・面談を行っている。	0	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1~2 (自己 52~89・外部 23~33)				自己評価3 8項目・外部評価1 1項目	7	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1	その人らしい暮らしの支援 (1)~(5) (自己 52~81・外部 23~30)		自己評価3 0項目・外部評価9 項目	6	
		(1)	一人ひとり尊重(自己 52~54・外部 23~24)	自己評価3 項目・外部評価2 項目	0	
		52	プライバシーの確保の徹底【外部評価】 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を全職員がしないことを徹底している。個人情報に関しても事業所からの書類持ち出し禁止。事業所以外のパソコンを使用しないを徹底し漏洩を防止している。個人情報保護法は理解出来ている。	0	
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	衣類の選択、外出、日々の活動、生活パターンを個々の力により自己決定していただくように働きかけをしている。表現不可能な方も今までの生活からの予想や表情などで理解し支援している。また、家族の方からも情報を得ている。	0			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	54 外部評価 24	日々のその人らしい暮らし【外部評価】 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールはあるが、個々のペースを尊重。食事時間はある程度決まっているが、本人の体調なども考慮し、時間をずらしたりしている。起床、就寝も個々で違っている。本人からの希望はできることであれば優先して支援をしている。希望を伝えられない方に対しても思いを汲み取るように努め支援している。	0	
		(2)	その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 (自己 55～60・外部 25～26)	自己評価6項目・外部評価2項目	1	
		55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	常に髪の流れや衣類の整え（汚染や毛玉がついたもの、ほころびは着ない）を行い、顔の汚れにも注意を払っている。美容院もシルバカットではなく、髪や個性を大切にしてくださる美容院を利用している（来店、訪問共に）。他の美容院や今まで行きつけにしていた美容院への支援も行っている。服もTPOを考慮し着用していただいている。	0	
		56 外部評価 25	食事を楽しむことのできる支援【外部評価】 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の力を発揮していただけるように意識的に働きかけを行なっている。食事の後片付けは利用者の方が主となり職員は補佐にまわっている。職員も利用者の方と同じものを一緒にいただいている。	0	
		57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙者なし。お酒も特に好まれる方なく、ノンアルコールビールを飲むことで満足されている。おやつは手作りのものを主としている。個別レクの中で本人が好まれるおやつを食べることが出来る支援を行っている。	0	
		58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要な方には定期的にトイレ誘導を行なっている。排泄チェック表や送り送りにより排泄パターンを把握している。オムツ使用も安易にせず、状態に応じて検討し、その時にあた使用をしている。本人の希望や不安感の軽減のために尿とりパット使用することがあるが最小限の使用に留め、オムツはずしに取り組んでいる。	0	
59 外部評価 26	入浴を楽しむことができる支援【外部評価】 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日出来るようになっている。入浴可能な時間も長く、個々に合わせた時間や長さ、回数が可能になっている。	0			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その人の体調や疲労具合を見ながら必要であればベット臥床（短時間）をしている。夜間の状態を記録し情報を共有している。睡眠剤は安易に使用せず、日中の活動や体内リズムを整える為に朝の散歩を行っている（朝食前）。	1	今後も早朝散歩を継続していく（冬季の一時期は休み）。早朝散歩が出来ない方についても1日1回できるだけ、日光浴をしていただける時間を作るように努めていく。
		(3)	その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 (自己 61~66・外部 27~28)	自己評価6項目・外部評価2項目	0	
		61 外部評価 27	役割、楽しみごと、気晴らしの支援【外部評価】 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前後の情報収集により自身を活かせる役割・楽しみごとを把握し、それが実行できるように支援している。また、日々の生活の中で役割や楽しみを意識的に拡大するように努めている。自分の事は自分です、出来る事を増やしていく生活を大切に考えている。出来る事を奪わない介護を行い、自信と感情が生まれる生活を支援している。	0	
		62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からの所持金の用意や本人の希望がなければあえて自分でお金を所持していただいていない。財布を持つ事で落ちる方には持参して頂き、戸外活動時に買物支援を行いながらお金を使っていたりしている。	0	
		63 外部評価 28	日常的な外出支援【外部評価】 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気がよければほぼ毎日のように散歩に行っている。外出先は希望をお尋ねしたり、想いを察して決めるように努めている。ドライブ、公共の乗り物に乗っての外出、馴染みの場所へ出かけるなど戸外活動は出来ている。身体的な理由で外出が困難な方は個別対応や庭に出て外の空気に触れていただいている。	0	
		64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	認知症高齢者が外に出て五感を刺激する事は大切と思っている。外出の希望を聞き、スポーツ観戦、音楽鑑賞、遠距離ドライブ、外食など個別あるいは複数で行なっている。また、家族を交えての外出や本人と家族の外出支援も行っている。	0	
		65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を自分でかけることが出来る方は自由に使用いただき依頼にも応じている。季節のたより（年賀状）などの文通支援も行っている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会時間を設定していない。あたたかな言葉かけと態度で接し、気軽に訪問していただけるように心がけている。家族の泊まりも自由であること説明している。	0	
		(4)	安心と安全を支える支援(自己 67~74・外部 29~30)	自己評価 8項目・外部評価 2項目	2	
		67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修参加や勉強会を積極的に行い、「身体拘束拒否宣言」を掲げている。転倒の危険性が高い方についても身体拘束は行っておらず、見守り・付き添うことで危険の回避に努めている。また、言葉の抑制「ダメ」「待って」を使用せず、興味を他に向けたり抑制ではない言葉かけを行なっている。	1	利用者の方の状態や要求内容によって言葉の抑制をするときもあるが、改善してくると言葉の抑制はしていない。今後、言葉かけの工夫必要と思っている。
		68	鍵をかけないケアの実践【外部評価】 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉には施錠はない。玄関は夜間のみ施錠している。職員は鍵をかけない暮らしを大切を理解している。ひいの郷の外に出る方に対しては常に職員が付き添い、外に出られた場合は外出を抑制せず付き添っている。	0	
		69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全確認に隙が出来ないように、目配り、気配り、職員の配置の工夫や職員同士の声掛けの徹底を行なっている。夜間は定期的に訪室、利用者の状況によっては訪室を増やしている。	0	
		70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々で持参されている馴染みの品については危険であっても一律に制限することはない。例えば、はさみや針については保管場所や方法を配慮し管理している。他の共同使用の物品は保管場所徹底と目に触れない工夫を行なっている。	0	
		71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクマネジメントの勉強会や内外研修を行っている。利用者個々のリスクマネジメントを行い全職員が理解し事故防止に取り組んでいる。事故・ヒヤリハットの報告や事故対策委員会、各ユニットでのミーティングで検討を行い再発防止に取り組んでいる。マニュアルを作成している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルにそってホーム独自の現地訓練を毎月行い、消防署を交えての防災訓練を行っている。外部での研修や地域での防災訓練にも積極的に参加している。	0	
		73 外部評価 30	災害対策【外部評価】 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網での職員の収集、避難場所や人命優先と共に内服薬や生命維持に必要な物品の搬出方法・確認、これらを周知徹底している。水や非常食の常備がある。地域住民の方の協力体制もある。	1	今後も近隣の協力体制を日々の活動のなかで強化していく。
		74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居契約時、ケアプラン説明時、便り（個人分）を中心に個々に起こりえるリスクの説明を行っている。特に危険性が大きくなったときにはこまめに説明している。また、ひいの郷が身体拘束のない介護を行っていることを理解していただき、その中で事故を防ぐ対応策を家族と職員とで話しあっている。	0	
		(5)	その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 (自己 75～81・外部 31)	自己評価7項目・外部評価1項目	3	
		75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや状態観察、「いつもと違う」の気づきを大事にしている。看護師による健康管理も行なわれ、変化や異変時には互いに報告・情報の共有を行い、その状態に応じて対応を行っている。必要時は医師への連絡・往診依頼・病院受診にて重度化を防いでいる。新しい職員には、一人一人の「普段の状態」を指導している。	0	
		76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服薬中の説明書をファイルし全職員が把握できる状態になっている。医師からの情報・指示・指導は記録や送りにて共有されている。服薬カレンダーに1日分を個々にセットし、服薬時に一人分ずつカレンダーからとり、名前・日時の確認を利用者と共に行っている。服薬の情報は医師に提供している。薬の説明はミーティングの中で行	1	個々の薬の内容・説明を個別やグループで把握できているかの確認をしている。これを継続していく。
		77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	研修や勉強会で理解を深め、個々にあった対応・工夫をしている。朝の散歩を中心に運動をするとともに水分摂取、食事に配慮している。定時、基本的には朝食後に排便目的のトイレの声掛け・誘導を行い、意識的に排便習慣をつけている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、毎食後に口腔の状態に応じてブラシなどの用具を使い分け、力量に応じて介助を行い清潔の保持を行なっている。週1回、歯科衛生士による口腔ケアが実施され、必要に応じて歯科医師の診察・治療がある。	1	自立されている方への歯磨きの声掛けが必要な為、声掛けの徹底を継続していく。	
		79	栄養摂取や水分確保の支援【外部評価】 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量共に把握・記録している（水分は一部の方）。目が見えない方には食器の工夫や必要に応じて形態を変え、摂取時の少しのアドバイスで自力摂取できている。	0		
		80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを作成している。食事の前の手洗いや外出後の手洗い・うがいを行なっている。日頃から感染症に対して意識付けをしており、感染多発時には独自の勉強会を行っている。インフルエンザの予防注射は毎年行なっている。	1	今後も感染予防、対応を行っていく。	
		81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルにそって行い、管理者は随時チェックをしている。作業中は手元ライトも付けまな板や包丁は作業途中にこまめに洗浄している。冷蔵庫の掃除や消毒を定期的に行い、台所全体の整理整頓、清潔に努めている。食材は新しい物を購入し早めに使用している。作業を行う際には丁寧に手洗いを行っている。	0		
	2	その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)~(2) (自己 82~89・外部 32~33)			自己評価 8 項目・外部評価 2 項目	1	
	2 生活の環境づくり その人らしい暮らしを支える	(1) 居心地のよい環境づくり(自己 82~86・外部 32~33)			自己評価 5 項目・外部評価 2 項目	1	
		82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	住宅街の中で違和感を感じない建物である。周囲をフェンスと花や木で囲み、歩道を歩く人たちの姿も見え開放的である。玄関周りにも植木鉢を置き、家族的な雰囲気を大切にしている。	0		
		83	居心地のよい共用空間づくり【外部評価】 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音は難聴の方のために、好みの番組が若干音量を大きくしているが、それ以外は音量を落とし、つけっぱなししないように注意している。職員の声のトーンは落ち着いている。日差しには遮光のスクリーンしており、パッチワーク、写真。利用者の方の作品を飾っている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間はけっして広くはないが、ソファや席の工夫をして気のあった方との交流が出来るようにしている。一人になることは難しいがテーブル設置を工夫して心理的に皆様と離れた状態で過ごす事が出来るようにしている。ホームの近くの場所にティールームとして使用できる場所がある。	0		
		85	居心地よく過ごせる居室の配慮【外部評価】 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた家具や用具を持ってきていただくようお願いしている。利用者の状態や好みにより畳を敷いている部屋もある。部屋の整理整頓など環境整備を行い、心地よく、安心・安全に生活していただけるように努めている。	0		
		86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計・湿度計を参考にしながら、利用者の方の様子や直接お尋ねするなどして、また、職員が臭いや空気のおよみ、室温に敏感になり、こまめに温度調整や換気を行っている。	0		
		(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり(自己 87~89)			自己評価3項目	0	
		87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下、外回りなどの必要な場所に手すりを設置している。浴室には浴槽と同じ高さの入浴台を置き、浴槽内の出入りが安全出来るようになっている。	0		
		88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレには場所がわかるようにネームをかけている。居室入口にはそれぞれ異なった暖簾を掛けている。整理整頓による環境整備を行い、転倒防止に努めている。	0		
		89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	必要な場所に手すりを設置し、庭には利用者の方が交流しやすいようにテーブルやベンチを置いている。物干し場も皆様使いやすいように開放的な場所に設置している。園芸が出来る場所は狭いが、花や野菜を植え、季節の変化を楽しむ事ができるようにしている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当番号	
サービスの成果に関する項目	90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	1		
	91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	1		
	92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2		
	95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2		
	96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	2		
	98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	1		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目		99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	2	
		100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	1	
		101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	2	
		102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族と 家族等の2/3くらいと 家族等の1/3くらいと ほとんどできていない	2	
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当番号	

サービスの成果に関する項目の該当番号は、選択肢の該当番号を示します。

番号の上位は自己評価の項目番号を指します。外部評価項目は、番号欄に網掛けをして外部評価と表示し、外部評価の項目番号を下に表記しています。

項目の横の重点は、外部評価の調査結果で重点項目として概要表に記載される項目です。

また追加は、福岡県が国の参考例に自己評価から外部評価に加えたり、新たに自己評価も含めて独自に追加した項目などです。